【第１号議案】

別冊資料

新発田市地域公共交通網形成計画

進捗管理シート

（令和３年度実績及び今後の取組）

令和４年 12 月

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－1	市内高校へ通学しやすい運行時間や運行ルートの設定
取組内容	登下校の通学時間帯における市内高校への移動ニーズに対応し、幹線路線については、朝夕の時間帯において限定したバス停のみに停車する高校直通便の導入を検討します。これにより、学生の移動手段の確保を図ります。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・コミュニティバスによる通学について周知するため、各高校を通じて新入生にチラシを配布した。
・市内各高校の最寄りバスまで運行する「高校通学便」の運行を引き続き行った。
(1)新発田市コミュニティバス：登校…6高校（新発田、新発田商業、新発田農業、新発田南、西新発田、新発田中央）、下校…2高校（新発田農業、新発田南）
(2)川東コミュニティバス：登校…6高校（新発田、新発田商業、新発田農業、新発田南、西新発田、新発田中央）、下校…2高校（新発田、新発田商業）

取組における課題等

・高校生の減少に伴い、コミュニティバスの利用も減少傾向にある。令和2年度はコロナ禍の影響を受け、定期券の売り上げは落ち込んだが、令和3年度は前年度比で約3倍に増加した。今後も高校生の減少傾向は続くことから、利用ニーズの変化や県立高校の再編に応じた運行内容の見直し（車両等の適正化も含む）により、効率的な運行をしていく必要がある。
・一部の高校への登校便において時間が合わない実態がある（アンケート結果）。

今後の取組の方向性

・高校生の移動ニーズに基づき、市内高校への登下校に利用しやすく、効率的な運行内容の見直し検討を進める。
・家族による送迎から公共交通機関利用へとつなげるため、各高校を通じた働きかけなどを行っていく。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－2	通院や買い物の往復など利用状況に対応した適切な運行
取組内容	通院や買い物のため、中心市街地への移動ニーズが高くなっています。利用実態と利用者ニーズを把握し、通院、買い物に利用できる時間帯とその復路の利用にも配慮した運行見直しを行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・松浦地区デマンド乗合タクシーの運行形態を4月1日から本格運行に切り替え、全便を定路線迂回型へ変更した。
・菅谷・加治地区において、8月1日から日中の買い物に利用できる予約便の実証運行を開始した。
・豊浦地域において、10月20日からコミュニティバスに切り替え、定路線迂回型運行を導入。今まで公共交通がなかった地域にも運行を開始した。

取組における課題等

・高齢化を背景に、高齢者の移動手段の確保が問題となっている。
・高齢者にとってより利用しやすい運行内容になるよう、運行形態も含め、各地区の公共交通の見直しを図る必要がある。
・自家用車を運転できなくなった時の将来への不安感はあるが、現在は自家用車で移動しており、なかなか公共交通の利用につながらない実態がある。
・予約便の利用が少ないため、時間帯など見直しを図る必要がある。
・新たに公共交通の運行を開始した地区からの利用が特に少ないため、利用促進や周知を重ねる必要がある。

今後の取組の方向性

・中心市街地の通院や買い物の目的地となる施設への移動は、あやめバスによってアクセスが確保されていることから、あやめバスとの接続を考慮して、コミュニティバス等の運行ダイヤの検討を行う。
・高齢者の通院や買い物ニーズを十分把握し、各地区の公共交通の見直しを進める。
・定路線迂回型の運行方式を周辺地域に展開する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	教育総務課

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－3	新発田市コミュニティバス（菅谷・加治地区）の継続運行
取組内容	・菅谷・加治地区住民の日常の移動手段となっている新発田市コミュニティバスの運行を継続していきます。 ・菅谷地区は高齢化率が高くなっており、ますます公共交通の必要性が増していくものと考えられます。新発田市コミュニティバスの運行受託団体であるNPO法人七葉を通じてバスの利用状況や住民の移動ニーズを把握し、地域の方が利用しやすい時間帯の設定やルートの改善を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・地元で立ち上げたNPO法人七葉に運行業務を委託し、新発田市コミュニティバスの継続運行を行った。
・地域の子どもたちの通学時等の安全性を確保するため、スクールバスの運行や放課後子ども教室への送迎を行った。
・アンケート調査及び乗降調査を基に運行の見直し（令和3年4月1日ダイヤ改正）や予約便の実証運行を開始した。

取組における課題等

・手帳提示の利用者数増加に加え、地元高校生の人数減少により、利用料収入が減少しており、今後、収支の悪化が見込まれることから、利用ニーズに見合った効率的な運行の見直しが必要となっている。
【手帳提示者の利用割合の推移】 H19～21／10%未満　⇒　H22以降増加傾向　⇒　H29／13.9%、H30／16.8%、R01／20.4%、R02／19.6%、R03／17.1%となっている。
【高校生の利用状況】 H29／202人　⇒　H30／170人（前年度比△32人）　⇒　R01／153人（前年度比△17人）　⇒　R02／121人（前年度比△32人）　⇒　R03／83人（前年度比△39人）となっており、通学便における利用者数の減少が続いている。

今後の取組の方向性

・予約便の利用が少ないため、時間帯など見直しを図る必要がある。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時見直し実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	教育総務課

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－4	川東コミュニティバスの継続運行
取組内容	・川東コミュニティバスの運行については、川東コミュニティバス検討部会において、平成29年度以降の基本目標や目標値を設定し、利用状況や移動ニーズに応じた時間帯の設定やルートの改善を行い、「地域の足」として将来へ引き継ぐ運行を維持していくことにしています。 ・高校生の自主通学を進めるため、高校生に対応したパンフレットの作成・配布、定期券の導入などによりバスをより利用しやすくしていきます。 ・高齢者の方々の公共施設や医療機関等への移動手段を確保するため、利用者アンケートを実施し、その中で把握した高齢者のニーズに対応した運行時間帯やルートの見直しを行います。また、わかりやすい時刻表の作成などを行います。 ・川東コミュニティバス検討部会と一緒になり利用促進事業を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・地域住民で構成される川東コミュニティバス検討部会と協議を行いながら、新潟交通観光バス株式会社に運行業務を委託し、川東コミュニティバスの継続運行を行った。
・川東コミュニティバス検討部会において、高校生の自力通学率を上げるため、中学3年生に回数券と乗り方案内を配布した。
・小学生の委員会活動後の下校に対応するため、夏ダイヤの期間一部の便で長峰まで延伸した。
・2月1日から一部の便で登校の際の安全性を確保するため、食品団地前と下岡田のバス停乗り場を食品団地内に変更した。

取組における課題等

・川東小学校への通学支援として、一部地域において運行の見直しが必要となっている。
・乗り換えがあり、利用方法が分からないとの意見があり、利用に繋がっていない（アンケート結果）。

今後の取組の方向性

・令和4年度以降の運行については、当面の間現状を維持することとし、地域主体の利用促進に取り組みながら毎年度運行の検証を行う。
・平成26年度からの利用実績を踏まえながら、利用実態に見合った効率的な運行内容について、川東コミュニティバス検討部会とともに検討を行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	毎年度検証・見直しを行う			継続又は見直し			
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	教育総務課

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－5	東中学校区の公共交通の見直し
取組内容	・東中学校区を運行している新谷線、東赤谷線は、小中学生の通学に利用されています。平成30年4月の東小学校の開校に向け、学校統合後の通学に利用しやすいよう地域の方や交通事業者と検討協議を行い、経路の変更やダイヤの見直しを実施します。 ・東中学校区公共交通・通学支援検討委員会を中心として、東中学校区の公共交通の確保に向けた協議・意見交換を継続して行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・五十公野～赤谷地区では、除雪等に関する要望書を県へ提出し、冬期間の通学の安全確保に努めた。
・阿賀町と連携して運行便数を確保した。
・松浦地区デマンド乗合タクシーの運行形態を4月1日から本格運行に切り替え、全便を定路線迂回型へ変更した。
・令和5年度の五十公野～赤谷地区公共交通の見直しに向けて、区長会に整備の方針を説明し、検討会議開始の準備をした。

取組における課題等

・特に高齢化の進む赤谷地区において、移動手段の確保が喫緊の課題となっている。

今後の取組の方向性

・高齢化に対応した運行形態について、引き続き検討を継続する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	優先的に検討・実施 →						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	教育総務課

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－6	各地区の公共交通の見直し
取組内容	・「見直し・整備の進め方」に基づき見直しを進めます。 ・公共交通空白域拡大や地域内交通が必要な地域において、地域住民で構成される組織を設置し、地域主体で取り組む交通サービスの検討を行います。 ・住民で構成される検討組織とともに、既存の鉄道や路線バスの活用、地域が運行主体のコミュニティバスやデマンド交通の導入等により、公共交通の見直しを進めていきます。 ・「小・中学校の望ましい教育環境に関する教育方針」に基づき、地域との協議において学校統合の検討が進む地区については、児童・生徒の安全安心な通学環境を確保するため、各地域の公共交通等の実情を踏まえ、通学支援を含めた最も効率的で利便性の高い公共交通の見直し、整備を地域とともに検討していきます。 ・サービスの向上や利用者の拡大を検討するなど、地域主体の公共交通の維持・運営を図ります。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

【豊浦地区】
・豊浦地域公共交通検討委員会を立ち上げ、運行内容を協議し、令和3年10月20日に「本田・天王号」、「中浦・荒橋号」の運行を開始した。

取組における課題等

・バス利用者が減少し、収支状況の更なる悪化が懸念される中、既存のコミュニティバス路線についても、利用ニーズに見合った効率的な運行内容等への見直しが必要となっている。
・自家用車が運転できることを理由に、公共交通の必要性が低い地域が多いのが実態だが、高齢化が進行する中、将来的な動向等を見据え、各地区の見直しを進めていく必要がある。
・高齢化が進む中、公共交通では対応できない移動ニーズについては、福祉分野との連携と強化し、地域による「互助による輸送」を交通ネットワークを補完する一つの手法として捉え、公共交通とあわせて検討していく必要がある。
・公共交通の整備にあわせて、「地域で地域の公共交通を守る」という意識を醸成していく必要がある。

今後の取組の方向性

・高齢化の進行に対応できるよう、新発田版デマンド方式の運行を他地区へ展開できるよう検討を進める。
（※菅谷・加治地区、川東地区、東中学校区については、個別の事業に掲載）

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施 →						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－7	コミュニティバス運賃の見直し
取組内容	・コミュニティバスの運行においては、利便性と採算性のバランスの取れた持続可能性が求められています。市民負担の公平性の観点や民間路線バスの運賃体系を考慮し、運賃制度の見直し検討を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・現行の運賃を継続
【市内コミュニティバス】地域内⇔地域内　100円、地域内⇔地域外　200円　※手帳提示で無料
【デマンド交通】地域内⇔地域内　200円、地域内⇔地域外　300円　※手帳提示で半額

取組における課題等

・現行の運賃を継続
【市内コミュニティバス】地域内⇔地域内　100円、地域内⇔地域外　200円　※手帳提示で無料
【デマンド交通】地域内⇔地域内　200円、地域内⇔地域外　300円　※手帳提示で半額

今後の取組の方向性

・既存のコミュニティバス路線を効率的な運行に見直しを図り、利用状況等の推移をみながら、コミュニティバス等を維持していくため、必要に応じて運賃の見直し検討を行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	コミュニティバスの検証・見直しに応じて検討						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	社会福祉課、高齢福祉課

計画の位置付け

目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－8	高校生や高齢者への運賃割引制度の検討と障がい者割引運賃の実施
取組内容	・中心交通拠点である新発田駅から距離が離れている地域では、路線バスの運賃が高く、定期的に通院等でバスを利用する高齢者にとって経済的な負担が大きくなっているのに加え、高校生の自主通学を阻む原因ともなっています。また、公共交通の見直しを行い、コミュニティバスを導入している地域との間で運賃格差が生じています。そのため、市街地中心部から離れた地域の高齢者や高校生が日常的にバスを利用しやすいよう運賃の割引制度の検討を行います。 ・障がい者の社会参加を促進するため、路線バス運賃の割引とあやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス運賃の無料化を引き続き実施します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

【障がい者割引運賃】
・あやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス運賃の無料化を実施した（継続）。
・松浦地区デマンド乗合タクシーでは、路線バス運賃の割引制度を下回らないよう利用料金を半額とした（継続）。
・豊浦地域公共交通では、路線バス運賃の割引制度を下回らないよう利用料金を半額とした（新規）。
≪路線バス運賃の割引制度≫　障害者手帳所持者　本人　割引率50%　ほか

※高校生や高齢者の割引制度及びコミュニティバスと路線バス運賃の格差是正については、各地区の公共交通の見直しを最優先としていることから具体的な検討は行えていない。

取組における課題等

・コミュニティバスについては、高校生の減少に伴い収入が減少傾向にある一方で、手帳提示による利用が増えており、今後収支の悪化が見込まれる。

今後の取組の方向性

・バスの運行を将来にわたって維持していくためには、採算性、収支バランスを考慮した運賃設定も重要となっており、[事業1－7　コミュニティバス運賃の見直し]とあわせて、検討を進めていく。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	地域安全課
担当者	狩野　琴根
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－9	高齢者運転免許証返納支援事業の継続実施
取組内容	・高齢者が自家用車からバスへと交通手段を転換することは、高齢者事故防止等の観点から重要であることから、高齢者運転免許証返納支援事業を引き続き行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・平成25年4月1日以降に運転免許証を自主返納または更新しないで失効した65歳以上の方を対象に、下記①～④のいずれか(5,000円相当)を支援。
①いきいきスタンプお買物券　　191件
②タクシー券　　125件
③コミュニティバス回数利用券　　26件
④路線バス回数券　　2件　　計　344件

取組における課題等

・平成25年の事業開始以降から申請者数は増加しており、順調に実施されている。この事業は、免許返納のきっかけづくりとして実施しているが、免許返納後の包括的な生活支援を含めたアフターフォローが必要だと考える。

今後の取組の方向性

・今後も事業を継続して行うとともに、高齢者の交通事故の減少を図るため、広報しばたや高齢者の交通安全教室等で引き続き制度周知を行う。なお、令和4年度から申請者に対する支援の選択肢に「運転経歴証明書発行手数料及び写真代」を追加。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	教育総務課、教育企画課
担当者	横山　朋子
連携課等	地域整備課、維持管理課

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－10	スクールバスの運行と定期券の購入補助
取組内容	・小・中学生が安心安全に通学できるよう、新発田市通学支援基準に基づきスクールバスの運行や定期券の購入補助を進めていきます。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

【通年支援】	
市スクールバス	二葉小学校、東小学校、佐々木小学校、加治川小学校、東中学校
スクールバス(事業者委託)	東小学校、豊浦小学校、東中学校
定期券購入補助	東小学校、東中学校
コミュニティバスのスクールパス発行	川東小学校、旧菅谷小学校、七葉小学校、七葉中学校
【冬期支援】	
市スクールバス	二葉小学校、佐々木中学校、加治川小学校
スクールバス(事業者委託)	佐々木小学校、旧中浦小学校、米子小学校、東中学校、佐々木中学校、紫雲寺中学校、加治川中学校
定期券購入補助	東中学校、紫雲寺中学校
コミュニティバスのスクールパス発行	川東小学校、七葉小学校、川東中学校、七葉中学校
PTA運行バスへの補助	豊浦中学校
タクシー借上	七葉小学校、紫雲寺小学校

取組における課題等

・バス乗降場所の安全確保のため、道路管理者等と連携を図り、より安全な乗降場所の確保に繋げていく必要がある。
・冬期間の除雪対応についても、道路管理者等との連携を図りつつ、乗降場所の除雪や降雪等による遅延の際の対応など、学校・地域・PTAとの協力連絡体制の強化を図っていく必要がある。

今後の取組の方向性

「新発田市地域公共交通整備の方向性」が見直しされたことに伴い、望ましい教育環境の実現による、新たな学校統合に伴う通学支援については、公共交通とは別に、スクールバスの単独運行の方向で検討する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事　業	1－11	廃止代替路線の検討、見直し
取組内容	・廃止代替路線バスは、収支の悪化等により、施策上必要と認めたものに限り、市が運行補助をし、路線の維持を行っています。近年、利用者数が減少し、必要とされる公共交通に変化が生じていることから、その必要性や今後のあり方について路線ごとに検証し、交通事業者と運行について検討・協議を行いながら改善していきます。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・月岡・乗廻線の運行を見直し、10月20日から新たにコミュニティバス、乗合タクシーの「本田・天王号」、「中浦・荒橋号」の運行を開始した。
・赤谷六軒町線の見直しに向け、検討委員の選定に着手した。

取組における課題等

・事業者路線の今後の運行について事業者と十分対話し、市全体の交通ネットワーク整備の方向性を検討していく必要がある。

今後の取組の方向性

・事業者の意見等も踏まえながら、利用状況の推移等から運行の見直しを進める。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	各地区の公共交通の見直しにあわせて検討・見直しを行う						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事　業	2-1	鉄道との接続を考慮したあやめバス、コミュニティバス、路線バスのダイヤ改正
取組内容	・高校への通学を中心に、市外へ行くための地域から駅へ向かう移動ニーズや、駅から市内の目的地へ向かう移動ニーズがあり、市内外の移動の円滑化のためには、鉄道との乗継ぎを考慮したバスのダイヤ設定が必要となっています。 ・鉄道のダイヤ改正に併せ、あやめバス、コミュニティバス、路線バスのダイヤ改正を行い、鉄道との乗継ぎが可能な運行便の設定や待合時間の短縮を図ります。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・JR東日本新潟支社からの情報提供により、鉄道のダイヤ改正によるあやめバス・新発田市コミュニティバス・川東コミュニティバスとの乗り継ぎの影響を確認し、運行ダイヤを現行どおりとした（継続）。

取組における課題等

・朝夕の通勤・通学時間帯において、鉄道への乗継ぎニーズがある。

今後の取組の方向性

・鉄道のダイヤ改正に応じ、コミュニティバスの運行ダイヤの見直しが必要かどうか検討し、鉄道との乗継ぎが可能となるよう見直しを行う。
・動態調査などの結果から、各駅における乗継ぎのニーズを把握する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	鉄道のダイヤ改正に応じて実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事　業	2－2	あやめバスとの接続を考慮したコミュニティバス、路線バスのダイヤ設定
取組内容	・地域から市街地内の各施設へ移動するには、コミュニティバスや路線バスとあやめバスとの乗継ぎが必要となっていることから、各バス路線の相互の乗継ぎに配慮したダイヤ設定を行い、待合時間の短縮を図ります。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・あやめバスとの乗継ぎ時間を考慮して、新発田市コミュニティバス・川東コミュニティバス・松浦地区デマンド乗合タクシー、豊浦地域公共交通の運行ダイヤを設定している（継続）。

取組における課題等

・あやめバスとコミュニティバス・路線バスは新発田駅でネットワークが結節しているが、一部の便では、乗継ぎの待合時間が長く、乗継ぎの利便性が低い状況にある。

今後の取組の方向性

・コミュニティバスの時刻表改正や各地区の公共交通の見直しにおいては、新発田駅又は西新発田駅において、あやめバスとの乗継ぎが可能なダイヤ設定を検討する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	バス路線の見直しに応じて実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事　業	2－3	地域をつなぐコミュニティバスや路線バス同士のダイヤ設定
取組内容	・路線バスやコミュニティバスを乗り継いで通学する高校生や観光施設等を訪れる観光客などの移動の円滑化を図るため、地域間の移動ニーズに配慮し、相互の乗継ぎを考慮したバス路線のダイヤ設定を検討します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・新発田市コミュニティバスでは「七葉中学校前」バス停、川東コミュニティバスでは「川東小学校」バス停をコミュニティバス同士の乗継拠点として設定し、乗継ぎが可能なダイヤを設定している（継続）。

取組における課題等

・川東コミュニティバスの利用者からは、路線バスの木崎線との乗継ぎについて考慮を求める声がある。

今後の取組の方向性

・コミュニティバスや路線バスのうち広域的な移動を担う路線、沿線に利用者の多い施設が立地する路線については、その利用者の移動ニーズに応じて、コミュニティバスや路線バス同士の乗継ぎが可能か検討する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	バス路線の見直しに応じて実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等	みらい創造課
担当者	石塚　玲子
連携課等	観光振興課、商工振興課、農林水産課

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事　業	2－4	利便性向上に向けた鉄道事業者への改善要望活動の実施
取組内容	・鉄道との乗継ぎ利便性の向上のため、鉄道事業者への改善要望活動を継続して行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

〇新潟県鉄道整備促進協議会
・鉄道ダイヤ改正時に事前に情報提供を受けられるよう、JRに対し要望活動を実施。3月のダイヤ改正にあわせ、事前に情報提供を受けている。

取組における課題等

・市内を循環するバスやコミュニティバスのダイヤ見直しに当たっては、白新線・羽越本線のダイヤ等を考慮し、電車やバス等への乗り継ぎを円滑にする必要がある。

今後の取組の方向性

・今後もJRから事前の情報提供を受けられるよう要望を継続するとともに、「事業6-4 羽越本線の高速化に向けた要望活動の実施やシンポジウムの開催支援」とあわせて、協議会事務局（新潟県）に対して要望内容の提案などの働きかけを行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	商工振興課

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事　業	3－1	バス待合所の設置推進とバス待合所等設置事業補助金制度の見直しの検討
取組内容	・バス利用が少ない理由として「雨雪の中でのバス待ち」が挙げられており、待合環境の改善が課題となっています。バス利用者の利便性向上のため、バス待合所等設置事業補助金制度により、自治会が行うバス待合所の設置、増改築、改修又は修繕に係る対象経費の一部を補助していきます。また、補助金の対象となっていないベンチなどの設置要望も多いことから、補助金制度の見直しを検討します。 ・中心市街地においては、待合所を設置するスペース等がないことから、バス停付近の事業者等の協力により待合環境の充実を図ります。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・バス利用者の利便性を向上するため、バス待合所等設置補助金制度により、自治会等が行うバス待合所の設置に係る対象経費の一部を補助した。
【実績】 新築2件　小坂、天王バス待合所

・翌年度の補助制度の活用について、市内の全自治会等に対し意向確認を実施した。

取組における課題等

・中心市街地を運行する市街地循環バス路線沿線では、ベンチや風除けの設置など、待合環境の改善を望む声がある。
・補助対象経費の拡大や補助を希望する自治会の増加に伴い、財政負担の増加が懸念される。
・待合所の設置が難しい中心市街地については、事業者等に待合スペースの提供やベンチの設置などの取組に協力してもらえるような仕組みづくりを検討する必要がある。

今後の取組の方向性

・周辺地区を中心に現行の補助制度による自治会等の待合所等設置推進を継続して実施する。
・買い物や通院の移動手段として、市街地循環バスをより利用しやすくするため、利用者の多い停留所に待合所やベンチを設置し、待合環境の整備を進める。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施 →						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事　業	3－2	バリアフリー車両の導入促進と導入車両の検討
取組内容	・路線バスの多くは、乗降ステップの段差が大きく、高齢者等がバスを利用する際の大きな障害となっています。高齢者等に配慮し、交通事業者と連携、協力を図りながら乗降しやすい低床型車両の導入や更新を随時行います。 ・また、地域内路線等への導入に当たっては、利用状況や道路状況に応じた車両選定を行います。	

令和3年度取組実績　※具体的に記載してください。

【松浦地区デマンド乗合タクシー】
・高齢化に対応するため、バス車両では入ることができなかった集落内を運行できるようワゴン車両による運行を行った（継続）。
【豊浦地域公共交通】
・高齢化に対応するため、バス車両では入ることができなかった集落内を運行できるようワゴン車両による運行を行った（新規）。

取組における課題等

・障がいのある方の利用率が伸びており、高齢者をはじめ、誰もが乗りやすい車両の選定が必要となっている。

今後の取組の方向性

・バス入替においては、バリアフリー法に適合した車両を選定する。
・バスの入替に当たっては、利用実態や道路状況等に応じた適正な規模の車両とし、財政負担も考慮しながら計画的な入替を行う。

実施スケジュール　※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	総務課、新発田駅前複合施設

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事　業	3－3	市内公共施設と連携したデジタルサイネージを活用した情報発信
取組内容	・新発田市役所（ヨリネスしばた）や新発田駅前複合施設（イクネスしばた）では、施設内のデジタルサイネージを活用し、あやめバスの運行情報を発信しています。引き続き情報発信を行い、バス利用者の不安感の解消や利便性の向上を図ります。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・前年度に引き続き、新発田市役所（ヨリネスしばた）と新発田駅前複合施設（イクネスしばた）のデジタルサイネージに、「バスどこ？」ホームページを表示させることにより、バスの運行情報の情報を発信した。
・「バスどこ？」ホームページの編集機能を活用し、随時、バスの遅延や代車運行などの情報を発信した。
・事業者と業務委託をして、あやめバス車内に広告モニターを設置し、行政情報や企業広告を掲載した。

取組における課題等

・デジタルサイネージによる運行情報の発信を行っている施設では、待合環境が向上している。
・バス広告モニターの広告の最大枠数が24枠に対し、現在は14社であり、さらに有効活用するため、委託者へ働きかける。

今後の取組の方向性

・デジタルサイネージの活用を継続する。
・「バスどこ？」ホームページを活用し、運行情報発信の充実を図る。
・バス広告モニターで企業広告、行政情報を掲載して利用者への情報提供を行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事　業	3－4	「バスどこ？」の対象路線拡大とシステムの再構築
取組内容	・バスは渋滞や天候等の影響により遅延が生じやすいことから、バス待ち時の不安の解消を図るため、あやめバス路線を対象として、バスの現在位置をホームページに表示する「バスどこ？」による情報発信を実施しています。更なる利便性の向上と不安の解消を図るため、対象路線の拡大や時刻表の検索機能の付加といった「バスどこ？」のシステムの再構築を検討します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・前年度に引き続き、「バスどこ？」による情報発信を行った。
・「バスどこ？」ホームページの編集機能を活用し、随時、バスの遅延や代車運行などの情報を発信した。
・新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス、松浦地区デマンド乗合タクシーへ「バスどこ？」を拡大した。
・豊浦地域公共交通への「バスどこ？」拡大に向け、事業者と協議し、令和4年度当初予算要求を行い、措置された。

取組における課題等

・運行時の振動等で機器に不具合が生じることがあり、機器の改良等が必要となっている。
・対象路線の拡大や新規機能の付加に当たっては、期待される効果や費用、財政支援制度の活用の検討が必要である。

今後の取組の方向性

・現行の取組を継続する。
・国の「標準的なバス情報フォーマット」活用の方向を検討し、「バスどこ？」の対象路線の拡大について検討する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	バス路線の見直しにあわせて対象地域の拡大を検討						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事　業	3－5	バス停案内表示の充実と公共交通ガイドマップの作成
取組内容	・バスを利用しない理由として「時刻表や運行ルート等がわからない」という意見が多くあることから、バスや鉄道を含めた地域全体の公共交通を対象とし、それぞれの時刻表や運行ルート、運賃、乗継ぎ等の情報をわかりやすく紹介する「公共交通ガイドマップ」やバス停の案内表示の作成を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・平成30年度に作成した標準的なバス情報フォーマットに基づくバス情報を経路探索事業者へ提供し、経路探索サービスにおいて新発田市コミュニティバスの経路探索が可能となった。（継続）

取組における課題等

・各地区の公共交通の見直しや既存のコミュニティバスの運行内容の見直し検討を行っており、市内の公共交通網が大きく変化する可能性があることから、市内全域を対象とする総合的なガイドマップの作成は、現段階では難しい状況にある。

今後の取組の方向性

・市内全域を対象とする総合的なガイドマップの作成については、各地区の見直しやコミュニティバスの運行内容の変更の時期を踏まえ、市内全域の見直しがある程度進んだ段階で検討する。
・当面の間は、各地区のコミュニティバス・路線バスとあやめバスの乗継ぎを紹介するなど、各地区に応じた利用ガイドを発行していく。
・経路探索サイトにコミュニティバスの情報データを掲載し、バス利用者の利便性向上を図る。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	バス路線の見直しにあわせて実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事　業	3－6	地域主催の乗り方教室の開催
取組内容	・「乗り方がわからない」「乗継ぎ方法がわからない」といった不安がバスを利用しない要因の一つとなっています。そのため、乗り方教室を開催し、公共交通の魅力や必要性、乗り方など日常生活の中で公共交通について考える場を提供することで、公共交通の利用促進を図ります。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

コロナ禍により未実施。

取組における課題等

・新しく始めた豊浦地域公共交通では、想定より利用者が少ないため、感染状況をみながら乗り方教室を実施していく必要がある。
・乗り方教室の参加によりコミュニティバス等の定期的な利用につながったのか効果を検証する必要がある。

今後の取組の方向性

【川東コミュニティバス】
・老人クラブと連携した取組を進める。
・過去の乗り方教室参加者を対象にアンケートを実施し、効果を検証するとともに、利用につながっていない場合は、その原因等について把握し、乗り方教室のやり方やバス運行内容等の見直しにつなげていく。
【松浦地区デマンド乗合タクシー】
・松浦地区公共交通協議会と連携し、あやめバスの乗り方教室も含めた内容で計画、実施する。
【豊浦地域公共交通】
・豊浦地域公共交通検討委員会と連携し、あやめバスの乗り方教室も含めた内容で計画、実施する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施　策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事　業	3－7	ICカード導入の検討
取組内容	・交通系ICカード（Suica等）は、小銭の用意等が不要となり支払いがスムーズになることや、乗降データの収集による詳細な利用実態の把握が期待できることから、車両の入替に併せてシステムの導入を検討します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・令和4年2月から新発田市独自のキャッシュレス決済システム「バスどこPay」の運用を開始した。
・あやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス、松浦地区デマンド乗合タクシーにシステムを導入した。
・新発田市役所や観光協会などの窓口で、現金チャージをするプリペイド方式。
・ICカードとWebアプリの2種類で運用している。

取組における課題等

・利用者全体に対し、キャッシュレス決済の利用者が少なく、あまり利用者が増えていない。
・通信状況により時折決済ができない場合があり、安定性に欠ける面がある。

今後の取組の方向性

・利用者を増やすため、周知を徹底していく必要がある。
・システムの安定性を高め、利便性を向上させる。
・これから公共交通の見直しを図っていく地区にもシステムを拡大する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画（R01見直し）				各地区の公共交通の見直し状況に応じて検討			
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	環境衛生課
担当者	細野　勇輔
連携課等	全課等

計画の位置付け

目　標	2	地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通
施　策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事　業	4－1	ノーマイカーデーの周知・啓発
取組内容	・ノーマイカーデー等の周知・啓発により、公共交通利用のきっかけを作り、自家用車から公共交通機関への利用を促すとともに、環境負荷の低減につなげます。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため自粛。（令和2年度～令和3年度）

取組における課題等

・自粛前の近年の実績をみると、ノーマイカーデーの実施率が減少傾向にあることが挙げられる。
　ノーマイカーデー実施者割合（全体）：平成30年度平均29％
　　：令和元年度平均24％
・特に、通勤距離4km以上の実施者割合が低い傾向にある。通勤距離が4km未満の職員は、自転車や徒歩での通勤を実施しやすいのに対して、通勤距離が4km以上の職員は、自転車や徒歩での通勤が難しく、公共交通機関の利用が必要となる職員も多い。バスや電車を利用しない職員にとって通勤手段の変化に対するハードルが高いことが考えられる。

今後の取組の方向性

・令和4年度は、感染者数の動向を確認しながら、ノーマイカーデー（毎月第1、第3金曜日）を継続して実施する。

周知・啓発について
・ノーマイカーデーの週の水曜日には、インフォメーションを通じて事前の周知を行う。
・ノーマイカーデーの実施日には、インフォメーションを通じて啓発を行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画（R02見直し）	随時実施			休止(再開未定)			
見直し後	随時実施			休止		再開	

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	商工振興課、観光振興課

計画の位置付け		
目　標	2	地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通
施　策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事　業	4－2	商店街等と連携した取組の検討
取組内容	・公共交通の活性化により中心市街地や地域に人の流れを生み出すため、地域の商店街・商業施設や市内観光施設と連携し、公共交通によるアクセス方法の周知や時刻表の設置、バス回数券の贈呈といった、利便性の向上や利用促進を図る取組を検討します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・商店街にある薬局、まちなかの観光休憩処たまり駅や商業施設内にあやめバスの時刻表を設置した（継続）。

取組における課題等

・公共交通機関利用に不安を感じている高齢者等が多くいることから、周辺地区からまちなかへの人の流れを作り、安心してまちなかで買い物等ができるよう、従前の時刻表設置場所以外で設置効果がある場所を検討し、簡単な乗り方案内ができるような協力体制を築いていく必要がある。

今後の取組の方向性

・商店街や商業施設、市内観光施設との連携の可能性について検討を進める。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画		あやめバスの検証・見直しに応じて検討 →					
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	2	地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通
施　策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事　業	4－3	車内・車外広告の募集やバス停のネーミングライツの検討
取組内容	・公共交通の維持に向けて収入を確保するとともに、情報発信手段として地域によるバスの活用を推進するため、音声広告や車内・車外広告の募集を引き続き行います。また、バス停名に施設・店舗名等を付けるネーミングライツの検討を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

【車内・車外広告の募集】
・広報しばた及び市ホームページで募集を行った。
令和3年度掲載実績（新発田市コミュニティバス車両）
　車外広告（継続）　6件
　車内広告（継続）　1件

取組における課題等

【車内・車外広告の募集】
・車両後部の枠については、掲載スペースに空きがあり、運賃収入が減少傾向にある中、運行に係る財源を確保するため、新規掲載への働きかけが必要である。
【ネーミングライツ】
・最寄りの施設名称とバス停名称が一致していないものも見受けられ、わかりやすい名称への変更について要望がある。

今後の取組の方向性

【車内・車外広告の募集】
・収入確保のため、引き続き、音声広告や車内・車外広告の募集を行う。
・広報しばた及び市ホームページのほか、市内事業者等に個別に働きかけを行う。
・他市の状況等を把握し、広告掲載料の見直しについて検討を進める。
【ネーミングライツ】
・ネーミングライツの有効性などについて検証するなど、引き続き検討を行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施（ネーミングライツは車内・車外広告の募集状況に応じて検討）						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	2	地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通
施　策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事　業	4－4	地域住民の主体的な組織づくりや活動の支援
取組内容	・地域公共交通の検討、維持を担う住民組織の構築を支援します。 ・住民組織の主体的な活動を支援します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

【菅谷・加治地区】NPO法人七葉／理事会や総会における利用状況等の資料提供を行った。利用者数が減少していることを受け、NPO法人七葉を母体にした検討組織とともに運行の見直しに着手した。
【川東地区】川東コミュニティバス検討部会／運行内容等の検討を行う会議開催や利用促進などの活動支援を行った。
【松浦地区】松浦地区公共交通協議会／役員会や総会開催、利用促進などの活動支援を行った。
【豊浦地区】豊浦地域公共交通検討委員会／地域交通の見直しに向け、検討し、新たな運行を開始した。

取組における課題等

・地域が主体となって取組が進められるよう「地域で地域の公共交通を守る」という意識の醸成が必要である。

今後の取組の方向性

・検討組織の活動を通じて、これまで以上に地域主体の取組が進められるよう、引き続き活動を支援していく。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	地域住民の意向に応じて実施 →						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	2	地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通
施　策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事　業	4－5	公共交通の手引きの発行
取組内容	・公共交通の課題を抱える地区では、課題解決に向けた取組の進め方が地区住民に十分に理解されていないことや、一部の住民にしか共有されていないことから、地区全体での主体的な活動につながっていかない状況がみられます。 ・住民の主体的な公共交通の検討、維持、運営等の活動を支援するため、行政と地域住民の役割分担を明確にし、具体的な取組の手順を示した住民向けの冊子を発行します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

未実施

取組における課題等

今後の取組の方向性

・運行見直しの過渡期であるため、市内の整備が完了した段階で検討したい。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画 （R01見直し）				優先的に検討 →			
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	2	地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通
施　策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事　業	4－6	各種イベントやホームページ等の活用による利用促進・意識啓発
取組内容	・公共交通の必要性やあり方を考えるきっかけづくりや公共交通利用者の拡大に向け、各種イベントでの車両展示やパンフレットの配布、ホームページでの情報発信等により利用促進や意識啓発を図る周知活動を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・令和3年度は2年度に続き、コロナ禍により、例年参加していた下記のイベントが中止になった。
　7月：サマーフェスティバル
　11月：川東文化のつどい
　2月：まちづくりフェスタ
・市内において運行している各種バスの利用促進に関するチラシを高校（4月）やイベント等にて配布することにより、利用促進を図った。
・前年度に引き続き、あやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス、松浦地区デマンド乗合タクシー、路線バスの時刻表をホームページに掲載したほか、豊浦地域公共交通の利用方法についてホームページ等を活用して周知した。

取組における課題等

・公共交通を利用したいと考えているものの、公共交通の利用に至っていない方もいることから、その要因を把握し、適切な情報提供や利用の働きかけを行うことが必要となっている。

今後の取組の方向性

・ホームページ等を活用した情報発信においては、時刻表や系統図などの運行内容に加え、運行状況や乗り方に関する記載など、利用しやすい環境につながる情報の充実を図る。
・各種イベントなどでのPR活動においては、実際の利用につながるような情報提供や、将来の利用を見据えたPRや家族での利用を意識してもらえるような企画内容の工夫を行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	2	地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通
施　策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事　業	4－7	サポーター制度の構築
取組内容	・将来にわたる公共交通の維持確保に向け、市民が公共交通を応援できる仕組みを整えるため、地域の事業者や個人による協賛や支援活動等を行うサポーター制度を構築します。	

令和3年度取組実績　※具体的に記載してください。

未実施

取組における課題等

今後の取組の方向性

・赤谷地区において地域おこし協力隊にボランティア送迎の運転手としてサポートいただいている。
・地域おこし協力隊の着任から3年が経過後、集落支援員として地域に残り、乗り方教室開催等のサポートを検討したい。

実施スケジュール　※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画				地域住民の組織づくりや活動に応じて検			
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	2	地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通
施　策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事　業	4－8	高校･大学と連携した利用促進活動
取組内容	･公共交通は、通学をはじめとした学生の移動手段として利用の拡大が期待されることから、効果的な利用促進を行うため、学校における公共交通の情報発信や、学生の視点を取り入れた取組の検討など、高校･大学との連携による利用促進活動を実施します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

･市内の各高校に協力いただき、新入生向けにバス通学便を紹介するパンフレットを配布した。
･新発田中央高校、新発田商業高校、新発田高校では、公共交通に係る情報を掲示するコーナーを設置し、公共交通の利用促進に協力いただいている。
･大学生のインターンシップ受入れにおいて、通学等における公共交通の利用促進策について検討を行った。

取組における課題等

･インターンシップ受入れの機会を活用し、利用促進策に係る検討は行うものの、具体化にまでは至っていない。

今後の取組の方向性

･引き続き、市内の各高校に協力いただき、新入生向けにバス通学便を紹介するパンフレットの配布や公共交通に係る情報を掲示するコーナーの設置などにより利用促進を図る。
･高校や大学のインターンシップ受け入れの機会を活用し、学生の視点を取り入れたバスの利用促進策の検討を進める。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画		随時実施 →					
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事　業	5－1	あやめバスの運行とダイヤ改正やルート変更等による利便性の向上
取組内容	・市街地内の移動手段の確保や回遊性の向上を図るため、公共施設や商業施設、医療機関等を結び、市街地を循環するあやめバスの運行を継続します。 ・あやめバスの利用が減少傾向にある要因として、移動ニーズと運行内容の不一致が考えられることから、施設の立地状況や移動ニーズ調査を踏まえ、市街地内への通学や買い物、通院の移動に応じた運行ダイヤの改正やルート変更を検討します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・昨年度に引き続き、新潟交通観光バス株式会社に運行業務を委託し、あやめバスの継続運行を行った。
・行先が見やすくなるように時刻表を修正した。（時刻部分の変更はなし）

取組における課題等

・平成26年4月に川東コミュニティバスの乗り入れに伴い、運行内容の見直しを行ったが、1便当たり利用者数については、運行見直し前の平成25年度が15.9人/便となっていたのに対し、令和3年度は11.4人/便となっており年々減少していることから、利用者の確保に向けた取組が必要となっている。

今後の取組の方向性

・各地区の公共交通の見直しの進捗をみながら、その見直しと一体的にあやめバスの運行ダイヤやルートの見直し検討を進める。
・市内各高校への登下校のニーズや市内外出先（商業施設、医療機関等）への外出ニーズを把握するとともに、新発田駅等におけるコミュニティバス・路線バス・鉄道との乗継ぎ状況と運行ダイヤについて検証を行い、見直しの検討を進める。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施（ダイヤ改正やルート変更は運行内容の検証に応じて検討）						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事　業	5－2	あやめバス利用者に対する移動ニーズ調査
取組内容	・あやめバスは、時間帯や乗車地によって利用の傾向が大きく異なるため、運行内容の検証においては、通学や買い物、通院といった日常生活における移動ニーズについて、詳細な分析を行う必要があります。 ・それぞれの移動ニーズを把握するため、定期的に行うバス停別の乗降調査に加え、発着地調査や利用者に対するアンケート、ヒアリング等を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・中心市街地内の商業施設等立地の変化に伴う利用状況の変化について考察し、今後の運行見直しの方向性や利便性向上策について検討した。
・令和3年7月と令和4年2月のそれぞれ3日間の全便調査を行い、今後の運行見直しの検討材料とした。

取組における課題等

・あやめバスの主要な利用者層は高校生や高齢者となっており、これらの利用者のより一層の利用を促す取組や運行内容の改善が必要となっている。

今後の取組の方向性

・高校生等の通学手段として利用してもらえるよう各地区の公共交通の見直しの状況をみながら、ニーズ把握を行い、運行内容の改善について検討を行う。
・高齢化の進行や高齢運転者の免許返納支援の取組により高齢者の需要増加が考えられることから、各地区の公共交通の見直しの状況をみながら、市街地内における高齢者の移動ニーズを把握していく。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	優先的に検討						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事　業	5－3	あやめバスの新たなネットワークの検討
取組内容	・あやめバスの沿線から離れた市街地の西側（新栄町、富塚町等）や東側（豊町、東新町等）の地域で商業施設や住宅地の立地が進んでいることから、変化する移動ニーズへの対応や新たな利用者の確保に向け、これらの地域を運行する新たなネットワークを検討します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

未実施

取組における課題等

・高齢化が進む中、運行ルートの拡大を望む声がある。
・運行ルートの拡大に当たっては費用対効果の十分な検討が不可欠となるが、利用意向の適切な把握が難しい。

今後の取組の方向性

・各地区の公共交通とあやめバスとの接続を図る上で、市全域の公共交通の見直しを一体的に検討する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画 （R01見直し）				移動ニーズ調査の結果を踏まえて検討			
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	地域整備課
担当者	佐々木　太郎
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事　業	5－4	パークアンドライドのあり方の検討
取組内容	・パークアンドライドについては、利用ニーズの状況や民間支援等の取組も含め、今後のあり方について検討を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・事業計画及び事業実施の候補地等について調査・検討を行った。

取組における課題等

・西新発田駅付近には民間の駐車場が多数あり、空きも十分あるように思われるため、市が新たに駐車場を整備する必要性は薄いと考えられる。

今後の取組の方向性

・北側駅前広場における乗降客送迎者の渋滞緩和のため、西新発田駅南側にロータリーを整備する。
・西新発田駅北側には、民間事業者所有の駐車場が多数あることから、市が新たに駐車場整備はしない。

※当市で、パークアンドライドを実施した場合、主に新潟市内の交通渋滞緩和や環境負荷軽減、次にJRの利用促進、結果として持続可能な公共交通につながることが目的と効果となるが、新潟市に向かう人を対象とするのか、あるいは新発田市に来る人を対象とするのか（市内7駅全てを対象とするのか否か）、また「キスアンドライド」、「バスアンドレイルライド（JRの利用促進を主目的とするのであれば、JRに合わせた市街地循環バスのルート、ダイヤ変更の手法）」等の手法を含めた全体的な公共交通について、公共交通推進室で議論を行い、具体的な話をしていくべきではないか。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	利用ニーズの状況等に応じて検討 →						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	地域安全課
担当者	狩野　琴根
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事　業	5－5	駐輪場の維持
取組内容	・交通拠点となる駅やバス停までの移動手段として自転車での利用も多いことから、利用しやすい駐輪場を維持していきます。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・市内各駅駐輪場の自転車等整理業務
・各駐輪場内における放置自転車の撤去、告示・通知業務（2回実施）
・新発田駅前駐輪場の違反駐輪に対する注意札の取付
・市内各高校に対し放置禁止の注意喚起を実施
・加治駅、金塚駅前駐輪場建屋の修繕

取組における課題等

・各駐輪場施設の老朽化対策
・放置自転車の抑制対策

今後の取組の方向性

・各駐輪場施設の老朽化対策に対する随時点検、補修等の実施
・放置自転車の撤去を適切に実施し、駐輪スペースを確保する
・高校卒業生による放置を予防するため、各校への放置禁止の呼びかけを徹底する
・委託業者への業務内容の徹底を周知し、放置自転車の減少を図る

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事　業	5－6	公共交通システムとの連携などの検討
取組内容	・交通結節点である新発田駅の利便性向上を図るため、公共交通との連携等により、賑わいのあるまちづくりを進める方策を検討します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・電話での問い合わせが多い新発田駅から市役所までの行き方のほか、新発田城や蕗谷虹児記念館といった観光施設への最寄りバス停を紹介するあやめバスのりばの案内ポスターを新発田駅構内に掲示した（継続）。

取組における課題等

・新発田駅は、あやめバス・コミュニティバス・路線バス・鉄道など全ての公共交通が結節し、公共交通機関相互の乗継ぎが図られる拠点となっていることから、待合環境の改善などの利便性向上が必要となっている。
・新発田駅ロータリー内や西新発田駅ロータリー内のバス停留所には、待合場所としてベンチが設置されているものの、風除けがなく、天候の悪い時は不便を感じている利用者がいる。
・高齢者からは、電車からバス、バスから電車、バスからバスなどの乗り継ぎにおける待ち時間を楽しく過ごせる「交流の場」が求められている。

今後の取組の方向性

・駅構内にある待合所をバス乗換えの際も気兼ねなく利用できるよう鉄道事業者に働きかけを行う。
・新発田駅前で高齢者等が待合時間を活用して交流が図られるよう、「交流の場」創出の方向について、関係課等と検討する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	駅の利用状況等に応じて検討 →						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	観光振興課
担当者	皆川　享淑
連携課等	新発田市観光協会

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事　業	5－7	移動ニーズ調査の実施や市内観光施設を結ぶ周遊ルートの策定
取組内容	・観光客の利用実態や移動ニーズを把握し、月岡温泉や市内観光施設へのアクセス手段の確保と観光周遊ルートの構築を図ります。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・新潟空港・新潟駅と、月岡温泉を結ぶ観光付き周遊ライナーの実証運行を、県の補助金を活用して継続実施した。令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、落ち込んでいた利用率改善のため、阿賀野市及び阿賀野市観光協会との連携によって、運行ルートを五頭温泉郷まで延伸したが、令和元年度に利用率約80%であったものの、令和2年度および令和3年度は利用率約40%と大きく減少してしまっている。また、新潟県空港課や他周遊ライナー事業を行っている市町村と連携し、クーポン券を付加した旅行商品造成(関西圏等)や、ネットでの記事掲載や情報誌への特集記事掲載等の利用促進施策を行った。

取組における課題等

・県の補助金が令和3年度で終了となったため、現在自主運行となっている。令和4年度は令和2年度までと同様に月岡温泉までのルートに戻し、更に料金500円引き上げて運行を行っている。令和4年度4月～8月の利用率は約36%と前年度を下回っていることから、今後、ニーズを把握し、利用者の増加により、収入を確保していく必要がある。

今後の取組の方向性

・関西圏やインバウンド誘客を進める中で、二次交通対策は極めて重要であり、併せて、ウィズコロナの様相となることを見据え、ニーズ分析を推進し、当事業を継続していきたい。そのためには、利用者の増加が不可欠である。今後、行動制限の緩和や全国を対象とした国の旅行支援策等により、首都圏・関西圏等の旅行者が増加すると考えられる。利用者の増加を図るため、空港利用者への利用促進も継続しつつ、新潟駅からの本ライナー利用を促進する取組を県等と連携して行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	観光振興課
担当者	皆川　享淑
連携課等	新発田市観光協会、阿賀北8市町村

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事　業	5－8	広域観光周遊ルートの策定
取組内容	・阿賀北圏域で連携して広域観光周遊ルートを策定し、圏域の活性化を図ります。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・令和2年度に阿賀北9市町村の担当者による会議を実施し、2～3ルート程度に厳選し、修正や情報更新が容易で、費用をかけずに発信できる、にいがた観光ナビ(新潟県観光協会運営のホームページ)内の周遊ルートのページを使って、情報発信することとしていたが、令和3年度は、コロナ禍で今後の動きも読めないとのこともあり、令和2年度の会議を踏まえた新発田市としての具体的な案を設定し、状況を静観した。

取組における課題等

・9市町村それぞれの考えや狙いが異なるため、引き続き調整が必要であり、それぞれの地域の観光素材を活かす周遊ルートの作成にも時間を要する。

今後の取組の方向性

・ウィズコロナにおける9市町村それぞれの考えや狙いを踏まえ、再度意見交換を行う。それを踏まえ、行政だけでなく、各市町村の観光協会から助言を受けながら周遊ルートを作成し、ネット上で情報発信をしていく。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事　業	6－1	近隣市町をつなぐ公共交通の見直し
取組内容	・通勤、通学をはじめ通院や買い物で市域を超えた移動は日常的にみられますが、人口減少や高齢化といった社会情勢等の変化によって移動ニーズも変化しています。そのため、近隣市町との移動を支える公共交通として、次第浜線、中条線、佐々木稲荷岡循環線、新谷線などの事業者バス路線の利用実態を把握し、地域の方が利用しやすいよう運行経路や運行ダイヤ等の見直しを行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・赤谷六軒町線と三川駅前～赤谷連絡所のコミュニティワゴンの乗継等について阿賀町と連携し、運行便数を確保した。（継続）

取組における課題等

・利用者が減少し続けており、運行の維持が難しくなっている。

今後の取組の方向性

・路線の利用実態や運行状況等を把握し、運行の見直しを継続して行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	優先的に実施 →						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事　業	6－2	交通結節点の待合環境の整備と乗継ぎダイヤの見直し[定住自立圏連携事業]
取組内容	・聖籠町の循環バス「エコミニバス」は、新発田市の大型商業施設が並ぶ「コモタウン」に午前午後1便ずつ乗入れており、そこで新発田市の市街地循環バス「あやめバス」に乗り換えることで両市町住民の通院や通学などの移動を円滑にしていますが、利用者の待合環境や利用環境は十分とは言えません。そのため、定住自立圏構想の取組として、利用者の一層の利便性向上を図るため、結節点である「コモタウン」にバス待合所を設置し、適切な維持管理を行うとともに、実態把握を行い、乗継ぎダイヤの見直しを行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・引き続き「エコミニバス」の「コモタウン」乗り入れを継続した。

取組における課題等

・連携事業の方向性について再検討が必要となっている。

今後の取組の方向性

・各市町の公共交通の見直しの進捗状況をみながら、当該事業の検討を進める。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画 （R01見直し）			随時実施 →			見直し実施 →	
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事　業	6－3	広域的な公共交通ガイドや位置情報システムの検討
取組内容	・公共交通ガイドや位置情報システムといった情報発信の取組については、運行主体や自治体により情報のアクセス先や情報量が異なることや、相互の連携が図られていないことから、広域的な移動における利便性が低くなっています。 ・近隣市町も含めた地域全体の公共交通網の活性化や、市内外の移動の円滑化を図る観点から、位置情報システムや公共交通ガイド等の情報発信の取組について、広域的な実施を検討します。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

未実施

取組における課題等

今後の取組の方向性

・定住自立圏構想の推進や広域的な公共交通の見直しの状況に応じて検討を行う。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画 （H30見直し）				広域的な公共交通の見直しに応じて			
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	みらい創造課
担当者	石塚　玲子
連携課等	観光振興課、商工振興課、農林水産課

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事　業	6－4	羽越本線の高速化に向けた要望活動の実施やシンポジウムの開催支援
取組内容	・羽越本線の高速化促進や羽越新幹線の整備に向けて、周辺市町村と連携し、国や鉄道事業者等に対する継続的な要望活動や、各沿線地域との連携を強化する羽越本線高速化シンポジウム等の開催支援により、新発田駅を拠点とした沿線地域の広域的な交通ネットワーク形成の強化を図り、地域の活性化につなげていきます。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

○羽越本線高速化促進新潟地区同盟会参画事業
・新型コロナウイルスの影響により羽越本線高速化促進大会は中止となったが、白新線・羽越本線の高速化に向け、JR東日本本社、関係省庁等へ要望活動を実施。
・羽越本線高速化シンポジウムを秋田県・山形県の3地区共同で秋田県にて開催し、沿線地域との連携強化を図った。
・白新線の複線化、羽越新幹線実現に向けた乗降客数増加のための取組として、「羽越・奥羽新幹線関係6県合同プロジェクトチーム」が調査活動や要望活動を行っている（調査活動については令和3年度に公表）。
○新潟県鉄道整備促進協議会
・JRに対する利便性向上等に関する要望活動を実施（白新線・羽越本線高速化等）。

取組における課題等

・平成30年度新潟駅連続立体交差事業第1期開業により新幹線・在来線同一ホーム乗換えが実現し、利便性向上による利用圏域の広がりが期待される。
　しかし、JR東日本に対し毎年要望活動等を行っているが、乗降客数の増加を前提条件とし、進展が見られない。また、人口減少の中、市も乗降客数増加を訴求する打開策が見い出せない。

今後の取組の方向性

・羽越本線高速化促進新潟地区同盟会参画事業では、同盟会事務局（新潟市）に対して活動内容の提案などの働きかけを行う。
・羽越本線の高速化に向けては、息の長い取り組みとなることが想定されることから、目下の課題であるコロナ禍により落ち込んだ移動需要の回復・拡大に向け、ワーケーション・荷物輸送など新たな移動需要の創出に取り組むことや、沿線の各地域をはじめとする交流人口・関係人口の増加を図る。
　また、白新線沿線への県立施設誘致を推進する。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施 →						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事　業	6－5	広域交通維持事業（県内都市間高速バス）[連携中枢都市圏連携事業]
取組内容	・県内都市間高速バスは、定時・速達性に優れ、地域間の通勤・通学等に欠くことができない移動手段ですが、自家用車の普及など高速バスを取り巻く情勢及び事業者の厳しい経営状況から減便・廃止が常態化しています。そのため、高速バスの利用状況把握や利用促進策に関する調査、検討を実施し、関係市町と連携して、高速バスの維持や代替手段の確保に向けた協議を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・新潟広域都市圏は、平成28年12月16日に連携中枢都市宣言を行い、平成29年3月28日に連携協約を締結、同日に都市圏ビジョンを公表した。連携中枢都市は新潟市で、連携市町村は三条市、新発田市、燕市、五泉市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、阿賀町（6市3町1村）、圏域人口は令和4年4月1日現在で1,202,187人となっている。
・本事業を含む地域公共交通に関連する連携事業について、令和3年9月に新潟広域都市圏連携事業（地域公共交通関連）として意見交換会を行った。（書面開催）

取組における課題等

・当市に関連する県内都市間高速バスであった村上線が平成28年9月末で廃止されたため、実質的な連携事業はなく、情報共有にとどまっている。

今後の取組の方向性

・引き続き、新潟市及び関係市町村と連携し、取組を進めていく。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施 →						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

担当課等名	公共交通推進室
担当者	小田切　達也
連携課等	

計画の位置付け		
目　標	3	まちの変化に応じた公共交通
施　策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事　業	6－6	生活交通維持事業（地域間幹線系統バス路線）[連携中枢都市圏連携事業]
取組内容	・複数市町村をまたがり運行されているバス路線は、地域間の通勤・通学・通院等、地域住民の日常生活に欠かせない路線です。国や県の支援を受けながら維持を図っていますが、利用者の減少や事業者の厳しい経営状況から現在のサービスレベルを維持することが困難になってきています。そのため、利用状況把握や利用促進策に関する調査、検討を実施し、関係市町と連携して、生活交通の維持確保に向けた協議を行います。	

令和3年度取組実績

※具体的に記載してください。

・新潟広域都市圏は、平成28年12月16日に連携中枢都市宣言を行い、平成29年3月28日に連携協約を締結、同日に都市圏ビジョンを公表した。連携中枢都市は新潟市で、連携市町村は三条市、新発田市、燕市、五泉市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、阿賀町（6市3町1村）、圏域人口は令和4年4月1日現在で1,202,187人となっている。
・本事業を含む地域公共交通に関連する連携事業について、令和3年9月に新潟広域都市圏連携事業（地域公共交通関連）として意見交換会を行った。（書面開催）

取組における課題等

・当市に関連する地域間幹線系統バス路線は、木崎線（万代シティ～新発田営業所）で、今現在の利用状況から、直ちに国庫補助の要件を充足しなくなるなどの、路線の維持に向けた課題等はないが、引き続き事業者や関係市町との情報共有等に努めていく必要がある。

今後の取組の方向性

・地域間幹線系統バス路線の維持に向け、引き続き新潟市及び関係市町村と連携し、取組を進めていく。

実施スケジュール

※計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05
計画	随時実施						
見直し後							